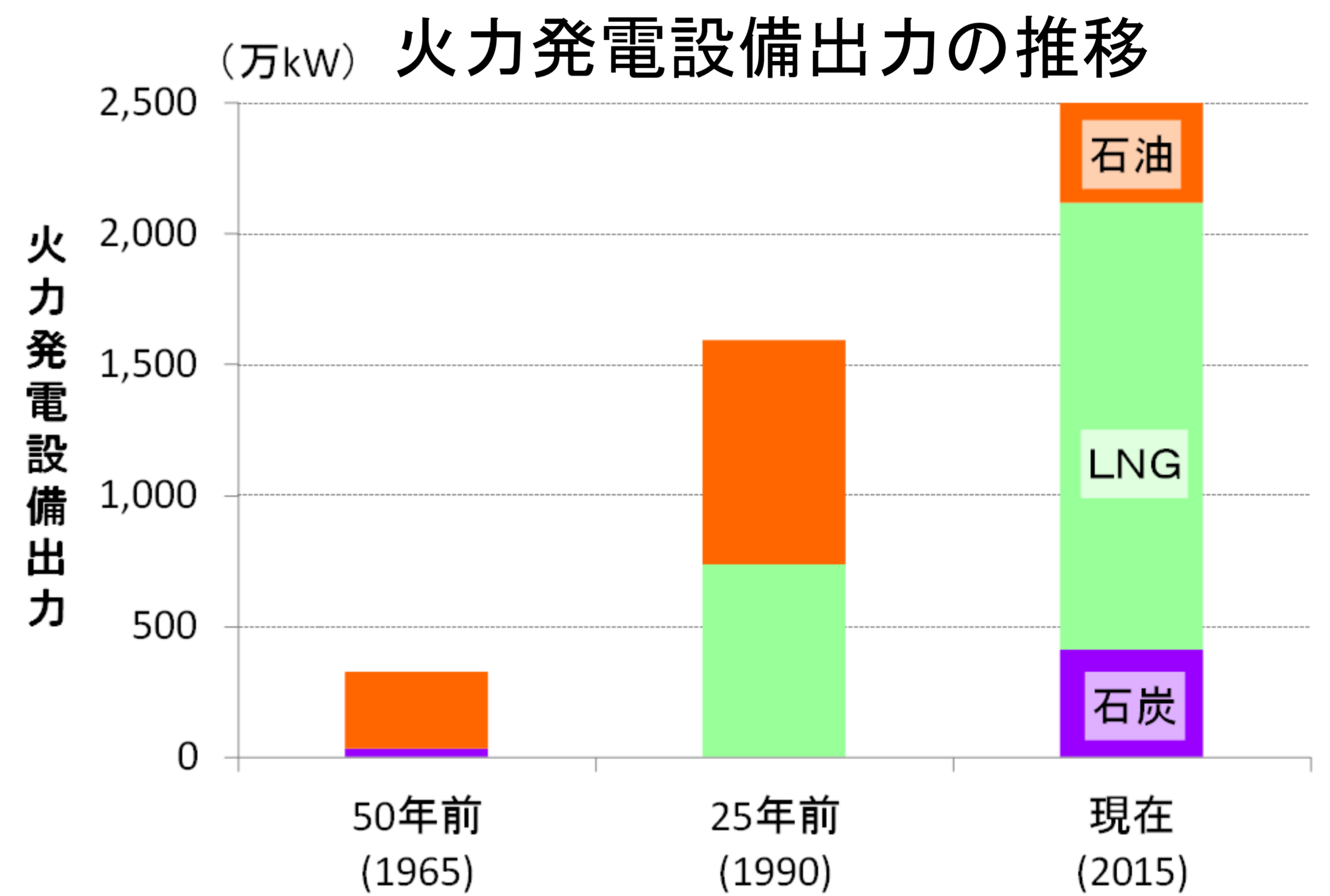


火力発電設備の変遷

当社の火力発電設備は、安価な電力供給や環境保全などの社会的ニーズに応えるよう、燃料の多様化、大容量化、高効率化等の開発を進めてまいりました。



当社火力発電設備の変遷

	50年前 (1965年)		25年前 (1990年)		現在 (2015年)	
石油火力	尾鷲三田	75 万kW	→尾鷲三田	125 万kW	→尾鷲三田	87.5万kW
	大容量石油火力の導入		武豊	134.5万kW	→武豊	112.5万kW
			渥美	240 万kW	→渥美	190 万kW
	新名古屋 (1~6号機)	125.6万kW	→新名古屋 (1~6号機)	125.6万kW		
	名港	28.5万kW	西名古屋	219 万kW		
	四日市	66 万kW	新清水	15.6万kW		
LNG火力			知多	335 万kW	→知多	396.6万kW
			知多第二	140 万kW	→知多第二	170.8万kW
			四日市	122 万kW	→四日市	124.5万kW
			川越	140 万kW	→川越	480.2万kW
1300°C級コンバインドサイクル発電の導入					新名古屋 (7・8号機)	305.8万kW
					上越	230.3万kW
1500°C級コンバインドサイクル発電の導入					碧南	410 万kW
	三重 (石炭・重油)	34.1万kW				
石炭火力					大容量石炭火力の導入	
総出力	329.2万kW	総出力	1,596.7万kW	総出力	2,508.2万kW	